

議 事 録

会議名	令和5年度第2回寒川町地域福祉計画推進会議
開催日時	令和6年3月29日（金）13時～14時50分
開催場所	寒川町役場 東分庁舎2階 第2会議室
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席者委員 山本正司委員（会長）、横山大樹委員（副会長）、徳澤小次郎委員、飛田尚慶委員、森一光委員、三留当美代委員、天尾隆子委員、江藤恵子委員、中村綾乃委員、小川原寿恵委員、関野淳委員、枝光悦子委員、上田泰成委員</li> <li>・事務局 福祉課 中澤福祉課長、柏木主査 町社会福祉協議会 稲葉事務局長、土屋主任主事</li> <li>・欠席者 渡部昭二委員、木藤剛委員、小澤宏史委員、望月真里子委員</li> <li>・傍聴者 なし</li> </ul>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒川町地域福祉計画・寒川町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定に関する町民アンケートの結果報告について</li> <li>・来年度会議日程について</li> </ul>
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒川町地域福祉計画・寒川町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定に関する町民アンケート結果</li> <li>・来年度会議日程</li> </ul>
公開又は非公開の別	公開
議事の経過	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 福祉課長あいさつ</li> <li>3 議題</li> </ol> <p>（1）寒川町地域福祉計画・寒川町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定に関する町民アンケートの結果報告について （山本会長）</p>

アンケート結果について、事務局より説明をお願いします。

資料1の説明

**(事務局 柏木)**

前回の結果より回答率が低いものの、統計上の必要数は超えている。

問9「隣近所とのつき合い方」については、前回同様の結果であり、隣近所が誰であるかを認識し、多少のコミュニケーションにとどまっている方が多いことが分かる。

問10「現在の困り事」について、「健康」は前回と同様に多いが、今回は「収入、貯金」「将来」が増加しており、昨今の物価高の影響により、今後の生活に不安を抱えている状況が見て取れる。

問11「相談相手」について、前回と同様に「家族や親戚」「友人」が多く、限られた相手にのみ相談している状況に変化はない。

問12「ささえあいから連想する活動」について、「発災時の助け合い」が最多である。本アンケート実施直前に発生した能登半島地震によるものと推測される。

問13「ささえあいの身近さ」について、半数以上が感じておらず、問9の結果も踏まえ、地域におけるつながりの希薄化が認められる。

問15「ささえあい活動への参加」について、「発災時の助け合い」が最少である。問12において最も想起されていたにも関わらず、参加経験が少ないという結果になっている。

問17「ささえあい活動への参加に必要なこと」について、「情報提供」が最多である。問16「ささえあい活動の不参加理由」においても「活動内容がわからない」が最多であり、周知の必要性を感じる。

問20以降の成年後見制度及び問26以降の再犯防止推進について、認知度が低く、更なる広報活動が必要である。

問31「本計画の取組の認知度」について、上位3番目までが社会福祉協議会の実施事業となっており、町民が接する機会の多い取組であることがうかがえる。

問32「社会福祉協議会で充実してほしい事業」について、前回に引き続き、「地域包括支援センター」が最多である。現在の少子高齢化社会に伴い、高齢者にまつわる相談窓口である「地域包括支援センター」への需要が大きいと考えられる。

本アンケート結果は、ホームページや計画書において公表予定である。

また、必要に応じ、本アンケート結果の年代別の集計は可能である。

**(山本会長)**

アンケート結果について、質問等はあるか。

**(徳澤委員)**

アンケートの回答率としては低くないと思う。

問3において、地区別の回答率を出すことができれば、有効な施策を考えていけるのではないか。

**(小川原委員)**

年代別での集計をお願いします。高齢者の回答が多いので、各年代で回答数が均一になるよう実施していただきたい。

**(枝光委員)**

問6について、その他の職業はどのようなものがあるのか。

**(事務局 柏木)**

次回、回答する。

**(天尾委員)**

問11について、民生委員・児童委員の数字が低いと感じた。

問22、23について、「わからない」の回答が、制度自体のことなのか、親族等の状況なのか判断しづらいと感じた。

**(事務局 柏木)**

民生委員・児童委員については、町広報誌、のぼり旗、デジタルサイネージ等を活用し、周知している。本年度はSNS等の電子媒体を活用し、若年層にPRしたいと考えている。また、成年後見制度を必要とする方への周知方法を検討していく必要があると感じる。

**(三留委員)**

民生委員・児童委員は日頃から声かけ活動を行っているが、イベント等への参加が少ないので認知度が低いのではないか。

**(関野委員)**

問10について、「介護について」の具体的な理由が分かると計画策定に活かされるのではないか。

**(山本会長)**

事務局より自由記述欄についての説明をお願いします。

**(事務局 柏木)**

若い方の発想に感心した。本計画は地域のつながりに重きを置いており、その根幹となる部分は達成できていないと感じる。今後、つながりを底上げできるよう進めていきたい。

**(徳澤委員)**

高齢者は行政等に頼りすぎていると感じた。自分自身でできることがあるのではないか。

**(飛田委員)**

医療機関においても、福祉制度周知用のポスター等を掲示していきたいと考える。

**(事務局 柏木)**

検討していく。

**(上田委員)**

自由記述欄にあるような住民の生の声を大事にした方がよいと考える。

**(横山委員)**

問15について、「災害が発生した際の助け合い活動」とは何か。

**(事務局 柏木)**

受け手側がイメージするものになる。

**(稲葉事務局長)**

募金活動や被災地への訪問等を指す。

**(山本会長)**

これからのビジョンや理念に加え、具体的な相談先や制度等を示すことで住民が抱える様々な不安を解消できるのではないか。また、福祉避難所がないという現状もあるが、災害時における体制を明示することが重要だと思う。そして、行政や社協だけで地域福祉活動を担うことは限界があるので、関係団体や民間企業を含めて地域として活動するのも一つの方法ではないか。

**(事務局 柏木)**

福祉避難所はないが、事業者等と災害時応援協定を結んでいる。医療機関や民間企業等の協力を得ることも視野に入れ、具体的な施策を検討していく。

**(森委員)**

災害時における行政の対応方針を示した方がよいのではないか。地域包括支援センターの業務時間外に認知症の方を警察に案内したことがある。そのため、業務時間外の対応方法を検討し、示す必要があるのではないか。

**(中澤福祉課長)**

災害対応所管課において本年度から避難所開設訓練を再開している。日頃からの訓練を通じて自助や共助の意識を高めることも大事であると考えている。本日のご意見は担当課と共有する。地域包括支援センターについて、時間外の対応は可能なのか。

**(稲葉事務局長)**

身元不明者である場合、警察に連絡するしかないのではないか。地域包括支援センターにおける即日対応は難しいと考える。

**(森委員)**

行政、社協、警察で連携を図り、調整していただきたい。

**(稲葉事務局長)**

SOSネットワーク事業において、関係団体や警察と毎年調整している。

**(飛田委員)**

認知症サポートは周知しているのか。

**(稲葉事務局長)**

認知症サポーター養成講座を行っている。

**(飛田委員)**

18時以降でも歯科医師会で認知症の方への対応は可能なので活用していただければと思う。

**(小川原委員)**

災害時、自治会における協力体制は重要であり、自治会員を増やすための周知が必要である。また、減少の原因について分析が必要だと考える。

**(上田委員)**

県内の他市町村でも減少傾向にある。若い世代が入りやすい仕組み作りが必要だと考えられる。

**(三留委員)**

自治会のあり方を考え直す必要がある。

**(森委員)**

新規加入のための取り組みを行っているが、減少傾向にある。

**(中澤福祉課長)**

自治会所管課も危機感を認識している。加入率を高めるために新たな手法を模索する必要があると感じている。

**(徳澤委員)**

自治会はなくてもよいのではないか。やはり自力で物事を解決するという気概が必要であると考えます。

**(天尾委員)**

地域の見守りという観点から見ると自治会は必要だと考える。役員を担えないという理由で辞める方が多数いた。

**(枝光委員)**

自治会での役割分担が重荷になっていると考える。紙媒体だけの周知ではなく、対面での説明が大事だと感じる。

**(天尾委員)**

問26の回答を受けて、周知の仕方を考え直さなければならないと感じた。

**(山本会長)**

価値観が多様化している昨今、唯一の正解はなく、老若男女問わず、様々な住民が安心して暮らせるようなつながり方を議論していくことが重要だと思う。

**(2) 来年度会議日程について**

	<p>(山本会長) 来年度会議日程について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>資料2の説明</p> <p>(事務局 柏木) 来年度は本計画の策定年度に当たるので、計画骨子や素案の確認等、計4回の開催を予定している。また、町地域福祉計画調整会議の開催、パブリックコメントの実施、庁議及び議会への報告も控えている。</p> <p>4 その他 次回会議日程調整</p> <p>5 閉会 横山副会長より閉会のあいさつ</p>
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1 寒川町地域福祉計画・寒川町社会福祉協議会地域福祉活動計画策定に関する町民アンケート結果</p> <p>資料2 令和6年度寒川町地域福祉計画推進会議開催スケジュール</p>
議事録承認委員	<p>徳澤 小次郎委員・森 一光委員</p> <p>(令和6年5月1日確定)</p>